

「男子厨房に入るべし」

定年になった皆さんに、またすでに何年か前に定年になっている方にも、お勧めしてみたいのが料理です。もちろん、各家庭や夫婦間にはそれぞれの事情があり「オレは料理なんてやらない!」と通している男性に押しつける気持ちはありません。でも、定年から20年が経った自分の経験から、料理が人生をととても豊かにしてくれてきた実感があるので、この欄で取り上げた次第です。

まず新聞に投稿し掲載された記事(2021年3月14日)の紹介から:

毎 日 新 聞

オピニオン

男子厨房に入るべし

英語講師 清水 武79 (東京都昭島市)

新型コロナウイルス禍での外出自粛で主婦の食事がりが大変になったと聞き、思い出すことがある。

私は定年後、妻の食事を私を助けるために料理学校に通った。若い女性の受講生にまじって50代後半の手際のいい主婦がいた。私は不思議に思って彼女に「なぜ教室に?」と尋ねた。すると「実は私の夫も定年に

なりました。今までは朝食と夕食だけでしたが、今後は昼食も用意しなければなりません。ですから、ここでレパートリーを増やそうと思ったのです」とのことだった。そこで「ご主人にも料理学校に行くことを勧めてみてはどうですか」と言ってみましたが、その後どうなったかは分からない。

ふんす塔
緊急事態宣言
こちらにも延長です
総務省
(相模原・相模湖福幹)

文字数の関係で書けなかったことを少し追加しますと:

➤ 現役時代には仕事が忙しいこともあって、インスタントラーメンにお湯を注ぐくらいで自分が料理をすることは殆どありませんでした。でも今は魚の2枚、3枚おろしや野菜のみじん切りなどもできるようになりました。



我が家の台所で

➤ 定年直後の1年間に週1回料理学校で習ったレシピは、和中西を併せて100を超えます。その中から自分と家族が好きな料理の定番が現在20あまり。レシピのカードを見ながら包丁を握っています。

➤ 料理本も買いましたがなぜかあまり役に立たない。それよりも購読している新聞に週1回その季節にあった料理が載ると紙面を切り抜いて見ながら腕をふるうことがあ

ります。レシピさえあればなんとかできる、との自信がついたのです。

- ですから何かの折りに友人から「エッ、清水君は料理もできるの？」なんて聞かれるとおもむろに「そうですねえ。和洋あわせて 30 くらいのメニューがあるかなあ？」なんて相手を煙に巻き誘い込むようなこともあります。
- 特筆すべきは海外での料理体験。定年 2 年目にスペインのマラガ大学に留学したとき、



世界から集った留学生たちとの懇談

クラス仲間を自宅のアパートに招いて、妻と一緒に寿司を握るなどの懇親の食事会も 2 回しました（スペインのカナリア諸島沖のマグロは日本にも輸入されています）。また世界文学紀行の一環として「ハムレット」の舞台のデンマークを訪れたときは、SGI（創価学会国際ナショナル）デンマーク文化会館で文化祭の練習をしていたメンバー 10 人ほどに提供する食事の準備のために、美しいデンマーク人女性と台所に立って手伝ったことなども楽しい思い出となっています。

クラス仲間を自宅のアパートに招いて、妻と一緒に寿司を握るなどの懇親の食事会も 2 回しました（スペインのカナリア諸島沖のマグロは日本にも輸入されています）。

また世界文学紀行の一環として「ハムレット」の舞台のデンマークを訪れたときは、SGI（創価学会国際ナショナル）デンマーク文化会館で文化祭の練習をしていたメンバー 10

そう、料理ができると人生が、世界が広がっていくのです。時代は「男子厨房に入るべし」——一定年を機に、あるいは思い立った時を機に、包丁を握ってみませんか！？



SGI デンマーク文化会館



アンデルセン博物館で会った女子高生たち